

清水の

# 豪援隊かわら版



清水ヒデキ  
豪援隊長・

弁護士・移民コンサルタント  
(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。



話題のヘア&ビューティーサロン・エリクサー！

日本の商品を使用した施術・販売、エステサロンでしか販売出来ない美肌ケアが出来る VECTEANA、アレルギーの人が使っても大丈夫な日焼け止め、メイク用品なども販売しており、大人気です。サンプルも販売していますのでお気軽にお問い合わせ下さい。オンラインショップもとても便利です。是非ご覧下さい。

<http://www.hairsalon-elixir.com/netshop>



## サーファーズパラダイス店

住所: Ground Floor,  
Hotel Watermark  
3032 G. C. Hwy,  
Surfers Paradise  
電話: 07-5504-6447

営業時間

火～土 10:00～19:00  
日・祝日 10:00～18:00

## サウスポート店

住所: Shop 30 Southport  
Park Shopping Centre,  
Cnr. Benowa & Ferry Rds,  
SOUTHPORT

電話: 07-5503-1494(Hair)  
07-5503-1494(Beauty)

営業時間

月～土 9:00～18:00

## ケアンズ店

住所: Shop 19,  
Orchid Plaza,,  
58 Lake St, Cairns

電話: 07-4051-8959

営業時間

月～金 10:00～19:00  
土 10:00～19:00  
日・祝日 10:00～18:00

## <今月の視点>

2月にオーストラリアを湧かせた出来事と言えど何と言っても労働党党首選でした。かつて、真夜中のクーデターにて首相の座を追いやられたラッド前首相が、ギラード現首相に対して党首の座をかけて再度挑戦するハメに。「ハメに」というのも、まさにラッド前首相が見事にギラード首相の取り巻きにハマられて、乗せられて、勝ち目もないのになぜか党首選にチャレンジすることになったからです。挑戦することにした方がいいが、その際もし負けた時の条件として、今後一切党首の座を狙う様な行動や周りを扇動するような行動は一切取らない、そしてギラード内閣への絶対服従を誓うことまで約束させられる始末。

そもそも、ラッド首相の退陣に関しては世論や労働党内でもラッド氏に同情的な声は根強くありました。国民人気はラッド氏のほうがギラード首相よりもはるかに高いです。しかし、ラッド氏があまり人使いの上手い政治家ではないためか、党内人気は今一つ。ラッド氏が自分に対する国民からの支持率が高いことによるおごりからか、首相時代に党内での彼をリーダーとする不満が多かったのが、そもそもの問題のようです。労働党の本当の意味で実権を握る人々にとっては、ギラード首相のほうが、国民人気を頼りに影の権力者の言うことを聞かないラッド氏の方が扱いやすいということでしょう。ラッド氏を首相にして選挙を戦うほうが有利だという様々な声は、今回の断ち切ることが可能となりました。正にラッド氏ははめられてしまったわけです。

そのような状態で始まった党首選、もちろんラッド氏は思うような党内の地盤固めはできませんでした。もし、ラッド氏が「政治生命を掛けて闘うつもりだ」「負けたら政治家を引退する」ということを掲げてこの党首選に望めば、過半数を持たない現在のギラード政権としては補欠選挙を嫌がりますから、何かしらのチャンスを作ることができたので、そのあたりラッド氏はあまりけんか上手ではなかったのかもしれませんが。

## <今月の注目記事>

Financial Review 2 Feb 2012 Toyota Demands IR Reform

オーストラリアの日経新聞にあたる Financial Review (2012年2月2日付)の一面に、トヨタオーストラリア社CEOの Max Yasuda 氏のコメントが掲載されていました。

安田氏曰く、現在のギラード政権下における Fair Work 制度は国際競争下における製造業の瀕する市場の変化に対応できるものではなく、それが350人の解雇につながったと述べています。

元々、このオーストラリア人の労働の問題はこの国ではある意味美德とさえ、考えられている問題です。閉店間際のお店に滑り込みセーフで入り込んで、日本ですとそのお客さんの買い物を持って、お店を閉めますが、こちらはお店の都合が優先です。閉店間際に入ろうとしても、閉める時間が近いからと入れてくれません。こちらの人が曰く、お客さんよりも家族が大事というのです。日本人の感覚からしますと、家族を大事にするために働いて養うことが必要というのであれば、それをさせてもらえるのはお客さんのおかげ。それであれば、お客さんを大事にしなければと思うのですが、何せこちらは狩猟民族社会ですから、その時、その時の判断しかあまりしません。

現在の労働党政権下、文字通り労働者のための政党である労働党の政策は当たり前のように労働者寄り。法律で定める最低賃金は上がる一方で、雇用主は日々従業員の給料を払うために働いているようだ、とこぼしています。ちなみに、QLD州におけるレストランのウェイトのバイトでの法定最低賃金は時給約22ドル。(ちなみに当方学生時代のバイトは近所のうどん屋さんで、時給650円でした。)日曜日に働く場合には時給約30ドル、そして祝日に働く場合には時給約37ドルにまで、跳ね上がります。祝日にバイトを希望する学生さんが多いのはうなづけますし、こんなにもらえるのであればレストランで祝日バイトをしたいと思うのは、当方だけではないでしょう。

安田氏はそれ以外にもオーストラリアの社員が後付けで病欠の届けを平気で出してくることや、日本であれば話し合いで解決できる些細な違いもストライキを起こして、工場での生産を止めてしまうことなど、オーストラリア人を雇用する雇用主の難しい部分を率直にコメントしています。労働者を保護する一方で、その労働者を雇う雇用主の擁護もきちんと行えなければ、必ずバランスが崩れます。その結果、最終的には保護すべき労働者の首を絞める、というよりも首にさせるという最悪な状況を作り出してしまいました。従業員を大事にする会社としてよく知られているトヨタの今回の解雇騒動はオーストラリアの労働問題に、波紋を投げかけることとなるのでしょうか？

## <今月の注目記事>

Boom Times - Mining Industry to revolutionise city  
(2012年2月14日 MX 紙より)  
ブリスベン市が思案した2012年から2031年までの経済計画プランによれば、資源業界の好況によりブリスベンは2031年までに世界でも有数の経済都市に発展し、今後82万人が更にこの地域に移住してくるという見込みを示している。そうなるとブリスベンは300万人都市となり、経済な生産額も217,000,000,000(2兆1700億)ドルになるということ。そうした経済成長、人口増加を見越してブリスベン市では24時間都市として、ますます人々の娯楽やインフラの整備を進める予定とのこと。ブリスベンに働く人々の10人中9人は45分以内に通勤できるだけの交通網の整備もするそうです。最近ゴールドコーストもあまり活気がないと言われている中、すぐ目と鼻の先のブリスベンではめまぐるしい成長をしています。しばらくはブリスベンを中心としたビジネスや投資を考えるほうがいいかもしれませんね。

## <今月のへえー！その1 裏技雑誌より>

目玉焼き”を美味しくするワザ。

卵を高さ5センチの低い位置から割ることで食感がまるでお菓子のようなふっくらなめらかな究極の目玉焼きの黄身ができる。卵の黄身は180万個もの卵黄球というマイクロな物質のかたまり。この卵黄球が黄身の食感を左右するのだが、実はこの卵黄球、衝撃に非常に弱いため、10cmの高さから落とすだけで、ほとんどつぶれてなくなってしまうらしい。

## <今月のへえー！その2 裏技雑誌より>

美味しい“リンゴ”の見分け方。

ビジュアルはもちろん…果実を指ではじいてみて、澄んだ…金属音に近い音がするもの。手に乗せた時、重量感があるものが良いらしい。

## <今月のへえー！その3 裏技雑誌より>

“ハンバーグ”を美味しくする方法。

ハンバーグを焼くとき、片面を焼いたハンバーグの真ん中に氷を差し込む事で、氷が溶け沸騰し、中まで火がしっかり通ったふっくらハンバーグが出来る。氷→水になり沸騰した熱が、ハンバーグの中から肉に火を通す役割をしてくれる。

## <今月の感想>

オーストラリアでは各地で大雨による災害で多大な被害を蒙っています。日本では各地大雪や厳冬である様子が伝わってきます。やはり、人間がいかに自分たちが、優秀だと思っても自然の力にはかないませんね。改めて自然とどう調和して暮らすかを考えさせられます。

## <今月のジョーク！その1>

旅客機に乗客が乗り込み、しばらくしても出発しようとしなかった。  
1時間もした頃、機内アナウンスが流れた。  
「こちらは機長です。本機はエンジンにトラブルが見つかりましたので、離陸は中止いたします」  
それを聞いた乗客は、散々待たされたイライラもあり、口々に「ふざけるな！」と叫んだ。  
やがて再び機内アナウンスがあった。  
「じゃあ、飛びます」  
機内は大パニックになった。

(ジョーク集より)

## <今月のジョーク！その2>

妻「あなた今日はいいいニュースと悪いニュースの2つあるの。どっちを先に聞きたい？」  
夫「そうだなー、やっぱり…いいニュースだな」  
妻「あなたの車の、エアバッグは正常に動作したわ」  
夫「えっ？」

(ジョーク集より)

## <今月のジョーク！その3>

6時になり若い課長が帰ろうとしていると、社長がシュレッダーの前で一枚の紙を持って立っていた。  
「なあ君。これは重要なんだが、秘書が帰ってしまっただね。君は、これ動かせるかね？」  
若い課長は答えた。  
「出来ます。」  
そして彼は機械のスイッチを入れ、紙を挿入するとスタートボタンを押した。  
「良かった良かった！」と社長は紙が機械に飲み込まれていくのを見ながら言った。  
「コピーは1部でいいぞ」

(ジョーク集より)

## <今日の商売とビジネスに役立つ格言>

『最初に来た者が牡蠣にありつける。2番手が手にするのは殻だけだ。』

(アンドリュー・カーネギー)

『傷つくのを恐れることは、実際に傷つくよりも辛いものだと、お前の心に云ってやるがよい。夢を追求しているときは、心は決して傷つかない。それは、追求の一瞬一瞬が発見との出逢いであり、本当の自分との出逢いだからだ』

(アルケミスト)



このかわら版、またはビザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に！

ALC ビザコンサルタント

QLD 州以外の方にも、ご利用しやすくなりました！

ゴールドコースト事務所 住所: Suite7, 155 Varsity Parade Varsity Lakes QLD 4227  
シドニー事務所 住所: 24 Lewis Way Newington NSW 2127

電話: 1300 365 811, +61-7-5630-6505, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)

E mail : [info@alcvisa.com](mailto:info@alcvisa.com) Website : [www.alcvisa.com](http://www.alcvisa.com)

東京事務所 (担当: 西川・松本)

〒170-0013  
東京都豊島区東池袋  
4-25-12 池袋今泉ビル 6F

電話: +81-3-3985-6003  
Fax: +81-3-3985-6009